Association of Musical Electronics Industry

CONTENTS

● 第18回 NAMM ビジネスツアー報告	1 ~ 4
Web MIDI WG 報告	4 ~ 5
● MIDI 検定試験実施結果報告	6
● 著作権・ソフト委員会報告	7
● AMEI 会員名簿・第 4 回通常総会と懇親会開催のお知らせ	8



今年のNAMM SHOWは、2015年1月22日から1月25日の開催期間で、例年同様米カリフォルニア州アナハイム・コンベンションセンターにて開催されました。NAMMの発表では、今回の入場登録者数は、99,342人と、今年もまた前年(96,129人)を上回り、総出展者数も1621社(新規出展社331社)と去年の1,533社(新規出展社303社)を上回り、ドイツで開催されるMusikmesse2014:出展社数1345/入場者数65362をも上回る結果となり、米経済の順調な回復にともない一段と上昇基調が強まったショーとなりました。また、今年はNAMMの運営事務所にもお邪魔してきたのですが、バッジの発行等に対しては、対テロ対策の一環としてセキュリティ管理が厳しくなったり、運営サイドの対応も大変な様子でした。

ショー全体の印象としては、エレクトリック・アコースティックギター等ギター関連の出展が増え、中小ギターメーカーのビジネスが堅実な印象を受けました。また、電子楽器関連では、ここ数年のiPadが林立している風景から一転、MOOGモジュラー・シンセサイザーやARP Odyssey, JD-Xi等アナログシンセ復活の先へ、各社様々な展開を模索している感じが、懐かしさと共に感じられました。

MIDI規格委員会主催の第18回NAMMビジネスツアーも今年は15名の参加を得て、NAMMショー及びMMA総会の日程に合わせ、1月21日出発~1月27日帰国のスケジュールにて実施することができました。

NAMM ビジネスツアー





今年の NAMM ビジネスツアーは、15名の参加メンバーを得て例年同様、NAMM ショーの一日前にロサンゼルスに着き、空港からチャーターバスでロサンゼルス市内をちょっと観光し、夕方アナハイムへ到着するという予定で実施することができました。今年も皆さん多忙なスケジュールで、日程が合わず1日早く、或いは1日遅く出発する方やロサンゼルス空港から直接会場へ向かわれる方等、自由度の高い?ツアーとなりました。それでも13名の方が、成田空港で写真に収まること

ができ、これも例年同様シンガポール航空 SQ012 便にて 1 月 21 日 PM6 時 50 分定刻どおり、成田空港を一路ロサンゼルスへ向け出発しました。

そして約10時間後、ほぼ定刻にロサンゼルス空港に到着、ロサンゼルス空港も改修工事が完了して、通関やセキュリティチェック等も随分スムーズになり、昼前にはチャーターしたバスに乗り込むことが出来ました。今回の観光の目玉は、カリフォルニア科学センターに展示されている2011年に引退したアメリカのスペースシャトル「エンデバー」。さすがに、全長:約37メートル/横幅:約24メートル/総重量:約8.5トンの機体は間近で見ると大きく、25回の宇宙飛行ミッションを経てきた傷跡がリアルで迫力がありました。また、ロサンゼルス空港からカリフォルニア科学センターへ、市街地を通り抜け陸上輸送されるエンデバーの様子も動画で放映されていて、短時間ではありましたが、なかなか面白い寄り道でした。その後は昼食を兼ねてファーマーズ・マーケット、ロサンゼルスのギターセンター、ドルビー・シアター、チャイニーズシアターと定番のコースを回り、7時半過ぎにアナハイムのホテルへ到着しました。



念願のNAMM Show

毎年各媒体にアップされるレポートを見ては、いつかは行きたいと憧れを抱いていたNAMM Show。今回このツアーに参加させて頂くことが出来、本当に幸運でした。お世話になった皆様どうもありがとうございました。【初日のロサンゼルス観光】

チャーターバスで定番観光スポットに連れて行って 頂きました。ハイウェイを移動するバスに乗る中、外 を眺めていると、映画や音楽 PV で見ていてずっと憧 れていた場所にようやく来れたんだと実感することが 出来ました。ギターセンターやハリウッドサインの見 える場所、ドルビーシアターなど行きましたが、中で も予想していなかったスペースシャトル「エンデバー」 を見れたことにはとても感激しました。

[NAMM Show]

ホテルから会場であるコンベンションセンターまで は少し歩くものの、風景や気候にいちいちロサンゼル スを感じられてつい興奮、あっという間に到着しまを 真に収め、いざ中に入ってみると、その出展規模や盛 り上がりに圧倒。まるで視界の限り広がるかのような たくさんの楽器、一般客に混じり我々と同じくックな たくさんの楽器、一般客に混じり我々と同じくックな たうに製品に触れる有名アーティスト、マニアックな 製品を嬉々として自身を持って解説してくれる展示者、 同じジャンルやアーティストを好きであることをアー イストの最高のライブ…挙げればきりが無いですが、 「これこそが自分の求めていたものだ!」と強く実感し ました。海外に行って必ず感じることは、人と音楽と

カシオ計算機株式会社 コンシューマ事業部 第四開発部 第42開発室 井口 友輔

の距離の近もでにがらまけるの時のでにがらまけ分のになりででにがらまけるのにならればまるが、分いまりでではにしるがなりまるが、分いまりがまりでではにしる更要をできるが、分いまが要をできる。 DTM 関係 スット 教長 がジェット



のシンセや復刻ものシンセ、盛り上がり年々が増すモジュラーシンセ等々、つい時間を忘れて弄ってしまいました。会場で見た製品のいくつかは購入予定なので、これからとても楽しみです。

【ツアー所感】

行けるのなら毎年でも行きたい。そう思える素晴らしい体験でした。本ツアーは航空券やNAMM Show 入場券、ホテルや移動手段の手配等々、手間のかかる作業は全て事前に行って頂けるので、細かいことを心配する必要も無く、自分の目的に集中することが出来ます。

今回私は出張でなく観光で参加させて頂いたので、NAMM Show 視察に加え、アメリカ観光も満喫させて頂きました。初めての方のみならず、既に経験のある方でも安心して楽しめるものと思います。今回このような素晴らしいツアーに参加させて頂き、本当にありがとうございました。

AMEI/MMA ミーティング報告

MIDI 規格委員会委員長 飛河 和生



1月21日から27日まで AMEI 主催による NAMM ツアーが開催され、今年は15名の参加がありました。 MIDI 規格委員会の AMEI/MMA 国際会議出席メンバーもこれに参加しました。

まず、NAMM 開催初日に長谷川会長と MMA の TOM WHITE 会長の会合が開催され、将来の AMEI と MMA のさらなる密接な関係の構築や MIDI の現状と未来について、活発で前向きな議論が交わされました。 TOM WHITE 会長は、MIDI はこれからも音楽制作の基本となるもので、MMA による MIDI 規格の啓発活動が今後も必要であり、MIDI 検定のようなものも必要ではないかとの考えを示唆されました。

NAMM 3日目の1月24日(土曜)朝7時半より、Anaheim Marriott - Grand Ballroom 'B' にて Joint MMA/AMEI Meeting が開催され、主に最新技術動向などについて議論が交わされました。また、今後 AMEI/MMA 双方のより密な関係を築くため、Monthly Report の考え方が提示され、今後進めていくことで合意されました。以下に今回の Agenda を示します。AMEI からは HD Protocolに対するスタンスの説明、Apple の Bluetooth MIDI に対する取り組み方の提案などが行われました。

○ ビジネスに関する項目:

- 1. HD Protocol Business Plan
- 2. MMA Business Plan

3. China MIDI

4. eScore

○ 技術規格に関する項目:

(先頭の数字は TSB アイテム番号)

191: HD Protocol 200: IEEE AVB

202: MIDI Electrical Spec Update

203 : IEC MIDI 206 : Poly Legato

207: Arpeggiator / MIDI Sync

208: USB MIDI Update

210: Bluetooth MIDI, OS Partners

同日1月24日(土曜)午後1時半よりMMAのBluetooth WG Meeting に参加しました。Apple のプロトコルを採用し、ver1.0として現内容を承認、今後、MIDI 1.0に足りない機能を入れていく方向となりました。

NAMM 最終日の1月24日(日曜)午前9時より、 MMA 総会に参加しました。

MMA 総会の内容は、

- 1. General Session
- 4. eScore Discussion
- 2. AGM Tech Session
- 5. Polyphonic Legato MIDI Discussion

3. HD Protocol Business Strategy Discussion が開催され、HD Protocol Business Strategy Discussion では、技術的な内容に関する議論は殆どなく、主にロゴ、ライセンスなど、ブレスト的なフリーディスカッシ

ョンの形でした。また、eScore Discussion では、AMEI 著作権ソフト委員会 音楽電子出版部の徳弘 部会長が Makemusic 社の Michael Good 氏と共にプレゼンテーションを行いました。



NAMMツアーに参加して

1月21日から27日にかけて、NAMM Show 2015を 視察するため、AMEI 主催のツアーに参加してきました。 私にとっては、NAMM Show の視察は2度目で、前 回につづいて AMEI ツアーとしての参加となりました。 ホテルは Show 会場から徒歩10分ほどでディズニーラ ンド近くの Disney's Paradise Pier Hotel。リゾート気分 いっぱいの他の宿泊客がディズニーランドに向かうのと

は反対向きに、NAMM Show 会場に通った4日間でした。

Show 開催中は、業務で関わった製品の展示サポートという目的で自社ブース内にいる時間が比較的長くありました。そのため会場を見て回れたのは1日半くらいで、やはり少し急いで回る事にもなり、見落としてしまった展示もいくつもありました。NAMM Show に限りませんが、展示会を「過不足なく」見て回るのは難しいものです。

NAMM Show 全体を通して感じたことは、ギターやギター関連商品の出展の多さでした。アメリカならではの特徴だと思いますし話としては理解しているつもりですが、自分で体感できるという現地視察の意義も再認識しました。また、スタートアップ企業もアメリ

株式会社コルグ 徳田 洋志

カに限らず様々なな国いま展らず様々としいりません。 で興味、それもでな者でいた。 若手だけでな者でのがことのでするな、新しいモノを でするな、新しいモノを



作って出展していたのが印象的でした。このあたりは 日本の楽器フェアではなかなか見られないものであり、 刺激にもなりました。

今回、こちらの都合で市内ツアーには不参加となり、ツアーの皆さんと行動する時間はあまり多くはありませんでしたが、帰国の前日には情報交換のできる場を AMEI に設けていただき、普段は接する機会のない他社の方ともお話する時間を持つことができました。このようにして業界の横のつながりを感じられたのも AMEI ツアーならではと思い、有意義なツアーとして締めくくることができました。AMEI 関係者、ツアー参加者のみなさん、ありがとうございました。

AMEI NAMM ツアーに参加して

NAMM は 2011 年 1 月に訪問して以来 4 年ぶり 2 回 目、前回は単純に会社の出張という形でしたが、今回 は AMEI ツアーに参加させていただきました。ありが とうございました。

AMEIツアーを利用させていただいてまず感じたこと は、視察が目的ならば非常に便利だということ。航空券・ ホテル・バッジの手配等は全ておまかせ、会場へのアク セス方法や食事場所等も教えていただけるので、視察に 集中することができます。前回は出展者としての参加だ ったので若干状況は異なりますが、それでも庶務に煩わ されずに本来の目的に集中できるという意味では非常 に良いと感じました。2回目とはいえ4年ぶりの参加で 記憶が曖昧な中そういった面での不安が無いというの は大きかったと思います。もし自身が初めての NAMM 出張者だったとしたらよりそう感じたことでしょう。

また、ツアー参加者の皆さんと交流させていただく 機会があったのも良い点でした。楽器業界は狭いとよ く言われはしますが、なかなか自社以外の楽器メーカ ーの方々とお話できる機会はありません。非常に印象 深いのは、視察も一段落した最終日前日の夜、皆で AMEI 事務局水野さんの部屋に集まり、情報交換会を したこと。お互いどんな仕事をしているのか、NAMM にはどういう心持ちで参加しているのか、といった話 題から始まり、楽器業界にどのような思いを抱いてい るのか、どういったことを成し遂げたいのかといった 熱い話、はたまた海外旅行や自転車といった個人の趣 味の話まで様々な話題で盛り上がりました。中でも、 若くして製品企画を担当され逆境の中でも頑張ってい

ヤマハ株式会社 NVPプロジェクト 和佐田 慎史

る方のお話は、私も頑張らねばという思いにさせられ る非常に良い刺激でした。

NAMM 自体の感想としては、良い意味でも悪い意味 でも「古き良き」という雰囲気を感じました。4年前と 比して若干 iPad や Android 関連のものが増えたとはい え、ミュージシャンがそこら中でセッションしていた り、様々なギターメーカーがずらっと商品を展示して いる光景は変わりません。来場している人々と会話し ても、あえてそういった「古き良き」を求めているよ うに感じました。これは家電や車やゲームといった業 界のショー、特に日本で開催されるものに参加してい るだけでは得られない感覚でした。今回 NAMM ツア ーに参加できて非常に良かったと思います。

ありがとうございました。



MIDI 規格委員会 Web MIDI WG報告

MIDI の新しい応用

MIDI 規格委員会 Web MIDI WG 渡邊 正和

◆盛り上がる様々なシーン

近年、CDの売り上げが落ちていると言われていますが、 フェスやライブなどのリアル・イベントの動員数は増え続け ています。それに伴い、ライブのステージ演出はとても重要 な要素になってきています。特に映像や照明と言ったビジュ アル面への需要はますます高くなってきているように思い ます。

また、プロジェクション・マッピングに代表されるような アートとテクノロジーを融合させた作品もここ数年盛り上が りを見せています。こうしたビジュアル・アートの分野でも 音楽は欠かせない要素になっているように思いますし、実際 に音と同期したアートの表現を様々なところで見かけるよう になりました。

個人レベルでもムーブメントは盛り上がってきています。 DIY の祭典『Maker Faire』や、プログラマーやデザイナー による開発イベント『ハッカソン』などでも音を題材にした 作品を数多く見かけるようになりました。

3つのシーンをあげましたが、実はこうした現場では、多 くのケースで MIDI が使われています。

(次のページに続く)





MIDI 規格委員会 Web MIDI WG報告

◆ギターと映像を同期させる

昨年 11 月、慶應 SFC Open Research Forum の『Web and Music』を AMEI でサポートしました。このイベントでも MIDI は活用され、ギター演奏とそれに同期した映像を会場であるニコファーレの LED ディスプレイに投影しました。

ギターは通常のエレキ・ギターではなく、ギター・シンセを使い、そこから出力される MIDI をトリガーに映像をリアルタイムにジェネレートする手法を取りました。ギター・シンセからは各弦を弾いた MIDI のノート情報が出力される他に、ビブラートやチョーキングといった非常にアナログ的な演奏情報もデジタルの MIDI 信号として取り出せるため、演

奏を細密に反映した映像表現が可能です。具体的には、ギターの各弦に対応したグラフィック・パターンを用意し、ギターを弾くと各パターンがディスプレイに描画されるようにしました。更に、ビブラートやチョーキングをするとそのパターンが揺れたり、音の強さで大きさが変わるといった表現方法も取り入れました。

これは MIDI 情報を直接ビジュアル表現に変換した一例ですが、一般的な VJ(ビジュアル・ジョッキー)の世界でもコントローラーや BPM 同期などで MIDI はよく用いられています。









◆新しい分野と技術

MIDI は電子楽器同士を接続するために誕生した規格ですが、前述のようにそれ以外の分野でも使われるようになってきています。ただし、それは楽器と全く関係ない分野で使用されているわけではなく、電子楽器の演奏情報に同期して何かをコントロールする、といった用途で多く使われているように思います。「同期する何か」とは、今は映像や照明、あるいはロボットなどですが、今後はアイデア次第でもっと応用分野は広がっていくのではないでしょうか。

更に、発展著しいウェブとも MIDI は融合し、Web MIDI API という新しい技術も登場しました。これによりウェブ・

ブラウザーとも MIDI で通信することが可能になりました。つまり、電子楽器からブラウザー上のメディアやコンテンツをコントロールすることができます。開発者にとってもメリットがあります。専用の開発環境がなくても、テキスト・エディターとウェブ・ブラウザーさえあれば、MIDI アプリのプログラミングが可能です。実は、前述のギターとの同期もこのウェブ技術を使用しています。

また、昨年リリースされた Apple の iOS8、Yosemite には MIDI over Bluetooth が搭載されました。

これにより、ワイヤレスで MIDI が扱えるようになっています。

MIDIは30年以上も前に誕生した規格ですが、現在でも進化を続けています。 是非、MIDIを使った新しい作品を創造して頂ければと思います。



MIDI検定試験実施結果報告

主催:一般社団法人音楽電子事業協会協力:日本シンセサイザープログラマー協会

平成26年度のMIDI検定試験は、1級が平成26年8月8 日~18日、2級、3級筆記試験が同12月7日、2級2次試験 が平成 27 年 2 月 21 日~23 日に行われました。今年で 6 回目 を迎える1級試験では課題曲に弦楽の楽曲を採り入れました。 それまではドラムやベースなどのリズムを構成する楽器を入 力してしまえば、それなりに形になるといった課題曲でした が、バイオリンやチェロといった抑揚表現が重要な楽器で構 成された今年度の楽曲では、MIDIデータの表現力の差が顕 著に表れるため苦労した受験者も多かったのでは無いかと思 います。また、11月に行われた楽器フェアでは、課題曲を作 曲頂いた外山和彦先生によるセミナーを開催し、本年度の課 題曲を生楽器(弦楽4重奏)の演奏を交え、それぞれの楽器 の演奏ポイントや表情の付け方などを解説していただきまし た。MIDIを使った演奏(シンセサイザー)に生楽器を加え て演奏したセッションでは、鳥肌が立つような空間ができあ がり、あらためて MIDI と生楽器が融合することの素晴らし さを感じられた瞬間でした。

2級、3級の筆記試験は新しいガイドブックになってから3回目の試験にあたります。ここ数年受験者の減少が目立っておりましたが、3級筆記試験では昨年より12名の微増となるなど、下げ止まりとも言える状況になりました。また、9月上旬から10月下旬にかけて、藤本錐氏の『DTM Station』というDTM(デスクトップミュージック)業界では人気の高いWEBサイトにてMIDI検定にまつわる記事を掲載して頂くなど新たな試みを行った結果も、受験者の微増に貢献しているのではないかと思います。

全国協力校・協力団体 試験会場

MIDI 検定3級及び2級1次試験の実施につきましては、下記の学校、団体に会場提供等のご協力を頂きました

[海道・東北エリア]

- ・ヤマハ札幌センター
- ・札幌琴似工業高等学校
- ・学校法人 日本コンピュータ学園東北電子専門学校

[関東エリア]

- · 代官山音楽院
- ・日本工学院専門学校
- ・横浜デジタルアーツ専門学校
- ・国立音楽院
- ・ヤマハミュージックジャパン
- ・トート音楽院渋谷
- ・アーツカレッジヨコハマ
- ・日本工学院八王子専門学校
- ・音楽学校 メーザー
- ・ハウス
- ・専門学校東京ビジュアルアーツ

[中部・近畿エリア]

- ・学校法人大阪創都学園 キャットミュージックカレッジ専門学校
- ・コンピューターミュージッククラブ Dee
- ・トート音楽院梅田・専門学校 ESP エンタテインメント
- ・専門学校静岡電子情報カレッジ
- ・リュウケイ ミュージック ネット
- ・専門学校 名古屋ビジュアルアーツ
- ・名古屋文理大学・金沢科学技術専門学校

[中国・四国・九州エリア]

- ・広島工業大学専門学校
- ・広島コンピュータ専門学校
- ・専門学校九州ビジュアルアーツ
- ・学校法人原田学園 鹿児島キャリアデザイン専門学校
- · Oita Sound Creator 協会



3級試験からスタートした MIDI 検定も今年で17回目を迎え、まもなく20周年を迎えようとしています。MIDI 検定発足当時はカラオケの MIDI データ制作者や着メロの制作者向けの検定というイメージが強かったのですが、昨今は1級試験のようなクオリティの高い表現力を駆使し、生楽器と遜色ない音楽制作の手段として利用される一方でボーカロイドをどの新しい分野における MIDI の活用も注目されており、少しずつではありますが変化しているように思います。発足当時のイメージから MIDI 検定は MIDI の工業的・技術的な知識をベースにした検定と思われがちですが、実際には音楽制作を基本にした内容となっており、音楽教育としても十分対応できる内容を盛り込んでいます。今後はさらに学習する内容を進化させると共に、検定システムの告知および合格者が活躍できる環境の整備にも力を注げればと考えております。

MIDI 検定試験結果の推移(国内)

			JI TXA		PHY	JETS	(INITA	,	
		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	果計
3級		第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第 17 回	
	mile D	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	
	実施日	12/7	12/6	12/5	12/4	12/2	12/1	12/7	
	受験者数	930	797	760	575	590	514	526	23920
	(内学校)	512	439	385	256	312	298	326	11989
	合格者数	627	504	465	370	339	261	271	16291
ĺ	合格率	67.42%	63.24%	61.18%	64.35%	57.46%	50.78%	51.52%	68.11%
		第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第 15 回	第16回	
2級 1次	実施日	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	
		12/7	12/6	12/5	12/4	12/2	12/1	12/7	
	受験者数	265	172	150	161	134	124	117	5532
	合格者数	187	87	79	109	84	30	73	2695
	合格率	70.57%	50.58%	52.67%	67.70%	62.69%	24.19%	62.39%	48.72%
		第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第 15 回	第 16 回	
2級2次	実施日	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	
		2/14 ~ 15 2/21 ~ 22 2/28 ~ 3/1	2/20 ~ 21 2/27 ~ 28	2/19 ~ 20 2/26 ~ 27	2/18 ~ 19 2/25 ~ 26	2/16 ~ 17	2/22 ~ 24	2/21 ~ 23	
	受験者数	165	99	76	88	74	45	78	3250
Ì	合格者数	109	77	48	57	41	21	33	1178
Ì	合格率	66.06%	77.78%	63.16%	64.77%	55.41%	46.67%	42.31%	36.25%
			第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	
1級	実施日		2010	2011	2012	2012	2013	2014	
			1/15 ~ 25	1/14 ~ 24	1/20 ~ 30	8/10 ~ 20	8/9 ~ 19	8/8 ~ 18	
	受験者数		153	76	46	45	43	27	390
	合格者数		43	17	19	11	9	14	113
	合格率		28.10%	22.37%	41.30%	24.44%	20.93%	51.85%	28.97%
国内	受験者合計	1360	1221	1062	870	843	726	748	33092

中国 MIDI 検定 3 級試験の推移

級	内 容	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	累計
		第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	
	実施日	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	
		12/7	12/6	12/5	12/4	12/16	12/1	12/14	
3級	試験会場	北京 天津 瀋陽 杭州 無錫 成都 青島 (全国7会場)	北京 天津 瀋陽 杭州 無錫 成都 青島 (全国7会場)	北京 上海南京 杭州 広西 (全国5会場)	北京 上海南京 杭州 瀋陽 青島	上海 南京 (全国2会場)	北京 上海 瀋陽 福州 南京 成都 南寧 (全国7会場)	南京 杭州 (全国2会場)	
	受験者数	119	103	177	242	80	243	65	1665
	合格者数	94	89	103	229	70	240	65	1452
	合格率	78.99%	86.41%	58.19%	94.63%	87.50%	98.77%	100.00%	87.21%

NAMM/MMA総会での電子楽譜プレゼン報告

AMEI 著作権ソフト委員会 音楽電子出版部会 部会長 徳弘 太郎

◆ MMA 総会での電子楽譜に関するディスカッション

2015年1月22日から25日にかけて、Anaheimにて The NAMM Showが開かれ、MMA(MIDI Manufacturers



Association) の 総会が合わせて開催されました。総会の後に、3つのディスカッションセッションが用意され、そのうちのひとつ "eScore Discussion" にて AMEI から徳弘が、MusicXML 陣営からは Makemusic 社 の Michael Good 氏がそれぞれの立場を代表し、電子楽譜関連技術領域のプレゼンテーションを行ないました。

◆セッションのねらい

このディスカッションセッションは、2014年半ばから活発化しつつある、電子楽譜・音楽表現の国際標準化に向けての2つの動きの橋渡しをするために、MMAのTom White 氏が企画したもので、MMAメンバーだけでなく、一般にも公開され、活動の周知を図るとともに、広く意見を募ることを目的としていました。そのような中、音楽電子出版部会としては、以下の3点を目標としてこの会議に臨みました。

- 1. AMEI/IEC での電子楽譜国際標準化活動の認知
- 2. MusicXML 陣営との協調の道を探る
- 3. 今後の協力体制の構築

◆会議への準備作業

The NAMM Show に参加するという場所の共通点はあるものの、普段行動を共にしない多くの関係者の調整、さらには個人的に今までに一面識もない方々とのディスカッションのため、会合のセットアップには、MIDI 規格委員会の飛河委員長を始め、多くの皆様のご支援をいただきました。今回のディスカッションで同じく登壇する Good 氏は、MusicXML コミュニティを長年リードしてきた論客でもあるため、ディスカッションの場でいきなり対面することはさけ、ランチミーティングを事前に設定いたしました。 Good 氏の印象は、技術的な背景・経歴から予想される人物像とは全く違った温和な方で、電子楽譜に関する互いの考え方だけではなく、音楽の趣味などプライベートなことも含め、広く会話をすることができ、ディスカッション前の緊張を和らげ、こちらの考え方・人となりも知ってもらうことができました。

◆実際の会議の様子

ディスカッションセッションは、50分間の時間が確保され、まず Good 氏から、W3C における MusicXML の標準化についての紹介がありました。氏のプレゼンテーションの中では、標準化の意義、過去の標準化の状況、それらを受けて、Web技術との親和性も挙げながら、なぜ W3C が MusicXML の標準化に向いているのか、ということが説明されました。続いて、徳弘より AMEI/IEC での電子楽譜の国際標準化に向けた動きに関して紹介をいたしました。セッションは、MMAメンバー以外にも公開されていたため、AMEI 自体の紹介に

始まり、国際標 準化の意味・意 準化団体としてを国体として では、IEC では、IEC では状況、今後 で成状況、今後 でした。



発表後の質疑応答では、MMAのTom White 会長のコメントに引き続き、標準規格の乱立による非効率への懸念などの意見が聞かれました。セッション自体は、あまり盛況とは言えず、忙しくNAMMの会場に散っていくMMAメンバーも見られましたが、逆にMMAとは関係のない楽譜関係企業の参加者も見ることができ、電子楽譜に関する業界としての興味の存在を確信することが出来ました。

当日の発表スライド、質疑応答の様子などにつきましては、Good 氏が Music XML コミュニティに記事を掲載していますので、そちらを参照することも可能です。

(http://www.musicxml.com/latest-news/)



eScore ディスカッション (徳弘部会長/Michael Good 氏)

◆総括

当初設定しておりました3点の目標のうち、1点目と3点目については、明確な手応えを感じることができました。2点目に関しましては、双方とも互いの動きを初めて明確に認識した状況ということもあり、具体的な調整の動きには繋がりませんでしたが、今回確立された人脈を元に、今後議論を進めていくことができるようになった、と考えています。今回の有益な会議の設定につきまして、ご支援をいただきました皆様に、ここで改めて感謝申し上げます。





東日本大震災、並びに福島第一原子力発電所事故により 被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。 被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

会員名簿

50音順 2015年4月現在

・ヤマハ株式会社

株式会社ラグナヒルズ

ローランド株式会社

〈正会員会社 37 社〉

• 株式会社博秀工芸

• (有)東京堀田制作集団

〈賛助会員会社5社〉

•中音公司(中華人民共和国)

• 株式会社ミュージックトレード社

株式会社リットーミュージック

6

3

* 賛助会員

● 一般財団法人ヤマハ音楽振興会 株式会社ヤマハミュージックメディア



• Apple Japan 合同会社

株式会社アムタス

W

株式会社インターネット

え

株式会社エクシング

株式会社エムティーアイ

か

カシオ計算機株式会社

• 株式会社河合楽器製作所

• クリプトン・フューチャー・メディア株式会社

クリムゾンテクノロジー株式会社

・株式会社コルグ

U

株式会社シーミュージック

• JVC ネットワークス株式会社

• 島村楽器株式会社

• 学校法人尚美学園

・株式会社シンクパワー

゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚

・株式会社ズーム

• 株式会社鈴木楽器製作所

株式会社スリック

セイコーインスツル株式会社

株式会社セガゲームス

• 株式会社第一興商

株式会社タムラ製作所

ティアック株式会社

٤

• 株式会社ドワンゴ

な

ナクソス・ジャパン株式会社

学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・

日本工学院八王子専門学校

• 一般社団法人

日本シンセサイザープログラマー協会

(E)

• Pioneer DJ 株式会社

3

株式会社フェイス

• 株式会社フェイス・ワンダワークス

• 株式会社フュートレック

み

ミュージックノート株式会社



AMEI/MIDI検定Webサイトにて

○平成27年度MIDI検定試験・指導者認定講座 スケジュール掲載

平成26年度広報活動の一環としてWebサイトのデザインを変更し 各委員会情報をより判り易くお伝えできるよう、適宜UPDATEを 行って参りました。まだ修正途中ではありますが、同時にスクリ ーンビューの計測を開始。現在までにAMEIサイト-18.81 OPV /MIDI検定サイト-54,925PVの閲覧を頂きました。

一般社団法人音楽電子事業協会

第4回通常総会と懇親会開催のお知らせ



平成27年5月14日(木)午後4時半~ 場所:ホテルメトロポリンタンエドモント3階「千鳥」

懇親会

日時:平成27年5月14日(木)午後6時~ 場所:ホテルメトロポリンタンエドモント3階「春琴」

多くの会員の皆様のご参加を お待ちしております

- ◇平成 26 年度事業報告 収支決算報告
- ◇役員交代の件
- ◇平成 27 年度事業計画(案) 収支予算(案)

AMEI NEWS Vol.56 / 2015.4.7 一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発 行:一般社団法人音楽電子事業協会 事務局 〒 101-0061 東京都千代田区三崎町 2-16-9 イトービル 4F TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人:岩崎修三

編集人:石黒士郎(広報委員会) 編集協力:株式会社 博秀工芸

ホームページアドレス:http://www.amei.or.jp/